



らかの形で実現できるよう検討中です。

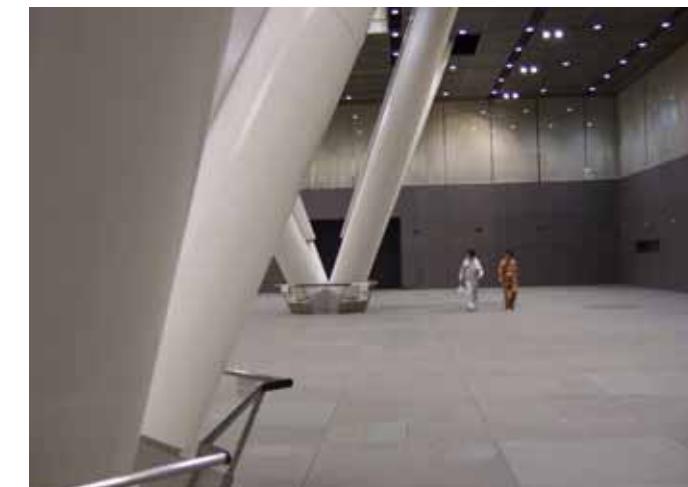
さらに、美術部員に参加を呼びかけたところ、余員以外からの問い合わせも含めすでに申し込みが届きはじめています。且つ、考えられる具体的な条件を再生委員会責任者、美術部長の白矢勝一氏に説明してもらいました。

## 会場は都心の一等地 メリットも多数

美術部長 白 矢 勝 一

開催場所

元東京都庁舎のあつたJR有楽町駅前の「東京国際フォーラム」地下2階（写真（下）参照）という一等地です。これまでも国際会議や各種フォーラムが開かれており、口頭ショノだけではなく、ホームページも国際的です。



5千円が必要です。それでも会場の場所は学会場でも田立つ、人通りの多い場所ですので、出品者の家族や知人ら関係者だけでなく、通りがかりや学会参加者多数の方々にもご高覧頂けます。

幅広くご高覧頂ける展示会場は学会場でも田立つ、人通りの多い場所ですので、出品者の家族や知人ら関係者だけでなく、通りがかりや学会参加者多数の方々にもご高覧頂けます。

5千円が必要です。それでも会場の場所などからすると、例年のクラブのイベントよりも割高です。特に2パネル使用で出品されると大変お得です。また、新人医師や学生、さらには・メディア、家族

参加費 ただし、医師は参加費2万円の会場費（気になる会場費ですが、医学系総会の会場内です）で、費用は掛かりません。

パネルが最低数で60枚あり、1パネル3万円、2パネルだと4万円の予定。また、パネルの大きさは900ミリ×2100ミリなので、1パネルだと絵画では縦位置なら30号、横位置なら20号まで

は相場額が減額されています。

部と部の横の交流、医家芸術クラブとして外部を連携（美術、写真、書道）し展示が可能なため、これまで少なかつた横の交流ができます。

学会からの表彰（最優秀、優秀作品には学会賞、医家芸術クラブ委員長賞などが授与される予定で、日本医師会後援の公的にステイタスのある賞を受賞するチャンスでもあります。

展示であります。100回のみな大作は  
2パネルで販売です。



会場へ送れば、一重手間を避けられます。  
[印真展・書道展との兼ね合]

印真展の場所は会紙大で、2段がけで  
あります。  
書道も会紙、半切、茶掛け、色紙など  
多様なサイズに合わせて数点飾れるでし  
ょ。

問題は秋の展覧会をどうするかです。  
年間2回が、23年度に限り春季開催か  
医家会総会への参加者の数で判断す  
るのかもしれません。

総合参加はクリアから一括で

以上は概略です。今後、さらに準備委  
員会を発足させ検討を重ねるつもりです

新入会員獲得のチャンス、以上のよ  
うに、作品や機関誌の展示によつ新入会  
員を募れる可能性が大きい。

会期、「見出し」に記しました。作  
品の納入方法や参加費の払い込みなどは  
今後詰めて行きます。広島県医師会の指  
術書へは、出品作品を当方からまとめて  
備費用や運送費などはしてられます。

## 前回の「併合会」を紹介

「JJD」、1999年4月3日に開いた  
「医学会総会・医師会館」の併合会につ  
いて、若干の説明します。

会場は西国酒家・医師会館「美地医  
家の会」の諸先生方と初の会合となりま  
した。作品を販売されたのは、当クリアか  
ら併合部長だった正田禪洋先生以下18  
人、医家の会から16人、合わせて34人

でした。JJDの会員は22人です。事前  
に作者の名前を伏せた句集を参加者に届  
け、JJDを基に互選による得票で会議賞  
などを決めました。

いま、JJDの会員のお名前を見ますと  
正田禪洋、大森聰久、中島道夫、東山徳  
衛、諸星博道、酒井淳児、玉田太郎各先  
生がすでに故人となられています。また、  
高齢、病気などで退会された方が7人  
(その後の消息は不明)もおられ、現在  
医師会場に名を連ねておられる方は、小  
南一子、中村雄彦、初井澄雄、福島重子

の4氏だけ。

会の進行ですが、東出先生が司会、大森副会長（後委員長）が挨拶、正田稻洋先生が句評をされました。このときの模様を東出先生は次のように原稿を寄せられています。

新しい出会いと再会と 東出徳衛

俳句会は、当初、吟行会を予定していました。時間的な制約もあって左記の段取りで実施することを「日医」「コース」「実医家のための会」「医家藝術」の各機関誌に「」案内を掲載した（中略）。

二十四人の参加申し込みがあり、事務局から事前の投句を依頼した。出句は

（A）医療に関する一句と（B）当季雑詠が一句で（A）と（B）から、それぞれ二句を互選した。また、医業俳句部委員・正田稻洋先生（俳諧「桑弦」主宰）には（A）（B）から五句を選んで、わざい相洋賞を贈呈した。

（A）について当日の席上、晴れの授賞式が

あり日本医学会総会会頭賞などが授与されました。

日本医家藝術委員長（大石武一）賞  
および正田稻洋賞（当季雑詠）

古離口きつなじの便き癖 稲田理子  
のほか、稻洋賞には、川久保亮、佐

藤洋子、鈴木壯一、中澤謙、「青柳洋」、  
鈴木良児、渡辺美穂子の四人が入賞

している。

会場は一気に懇親ムードに深入、マイクがテーブルを駆け回り、天衣無縫？ な

自己紹介が始まった（略）。

新しい出会いがあり、再会があり、心

温まる句会であったが、二十一世紀の吟行句会を約し、大森先生の閉会の辞で午後六時半すぎ手を振り握手しながら原宿を後にした（後略）。

ちなみに表彰作品を披露しましょ。

日本医学会会頭（高久忠彦）賞  
春の恋あけて遠慮告げにけり 中島道夫

日本医師会長（坪井栄孝）賞  
モニターの心電図消え春の闇 塚田浩一

東京都医師会長（佐々木健雄）賞  
および正田稻洋賞（当季雑詠）

燕来る授乳時間の乳母院 仲屋佐一郎

実地医家の会の仲屋氏は、都医師会長賞のほか稻洋賞を一つ、命わせて二冠を獲得、はるばる青森から上京し夫人へのお土産ができると満足げでした。